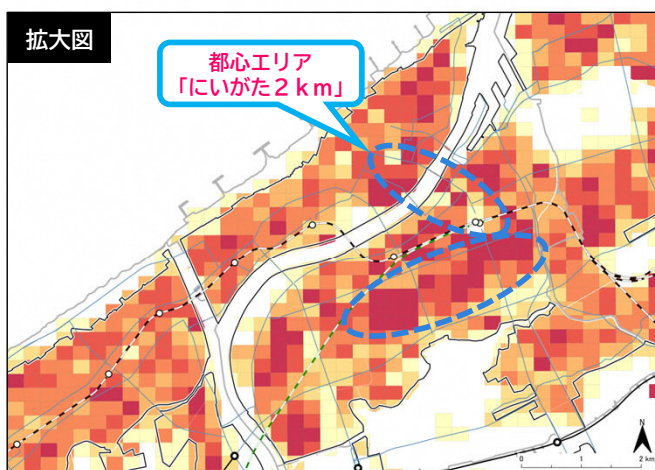


A-1 人口の分布状況

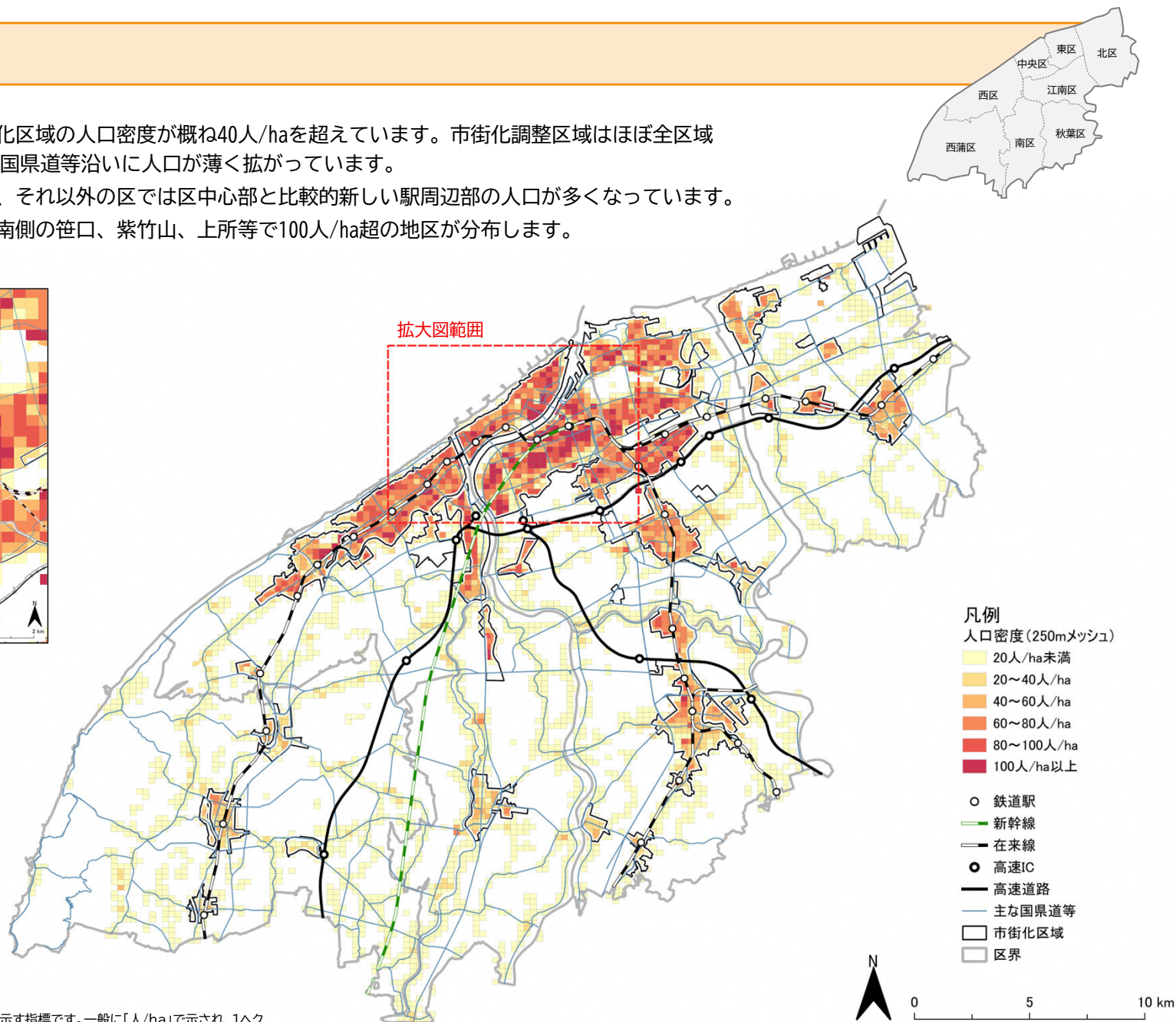
- ・新潟市全体の傾向としては、旧新潟市の市街化区域の人口密度が概ね40人/haを超えています。市街化調整区域はほぼ全区域で20人/ha未満となっており、河川沿いや主な国道等沿いに人口が薄く広がっています。
- ・区別では、中央区や西区、東区の人口が多く、それ以外の区では区中心部と比較的新しい駅周辺部の人口が多くなっています。
- ・中央区は、特に新潟2kmの縁辺部や新潟駅南側の笹口、紫竹山、上所等で100人/ha超の地区が分布します。



【図・グラフの説明】

この図は、新潟市の人口分布(人口密度)について、250m四方のメッシュ図で表現したものです。色が濃いほど、人が多く居住していることを表しています。図中で色塗りのない部分は人口がゼロであることを示します。

使用データ:「令和2年国勢調査(j-STAT MAP 250mメッシュ人口)」総務省

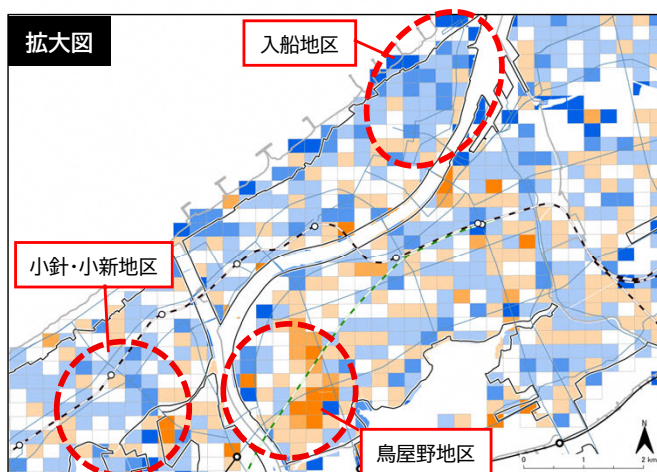


用語解説 人口密度：一定の面積あたりにどれくらい人が住んでいるかを示す指標です。一般に「人/ha」で示され、1ヘクタール(100m四方)に何人住んでいるかを示します。

図 人口分布状況(令和2年)

A-2 人口の増減状況

- ・新潟市全体の動向として、人口減少が進行する地域が目立ちます。特に旧新潟市以外の周辺区に減少地区が多くみられます。
- ・区別では、各区とも中心部の古い地区や、市街化調整区域のほとんどの集落で人口減少がみられます。
- ・中央区の中では入船、西区では小針や小新、五十嵐などで減少がみられます。
- ・一方、中央区の鳥屋野地区、秋葉区の荻川駅～新津駅の鉄道沿線や西区の内野西が丘、赤塚駅周辺などでは人口増となっています。



【図・グラフの説明】

この図は、新潟市の人口増減について、250m四方のメッシュ図で表現したものです。橙や青の色が濃いほど、人口の増減が多いことを表しています。

図中で色塗りのない部分は人口がゼロであることを示します。

参考資料:「平成22年・令和2年国勢調査(j-STAT MAP 250mメッシュ人口)」総務省

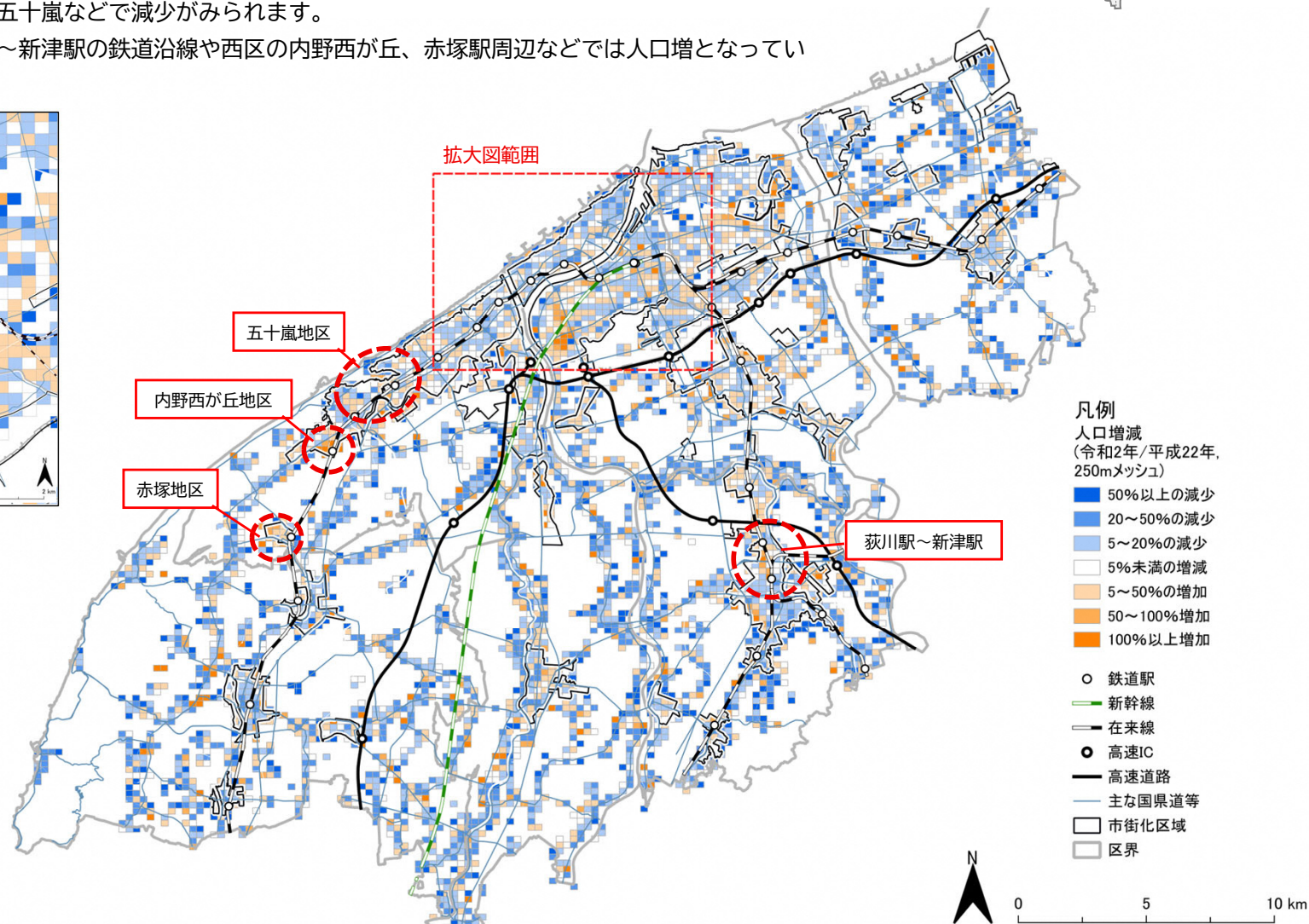
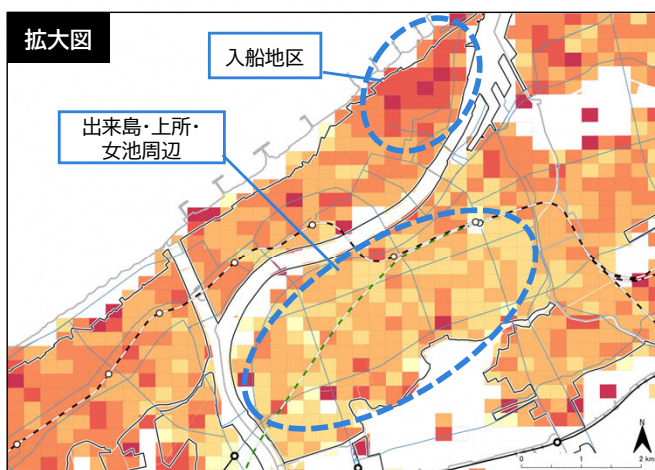


図 人口増減状況 (平成22年→令和2年)

A-3 高齢者人口の分布状況

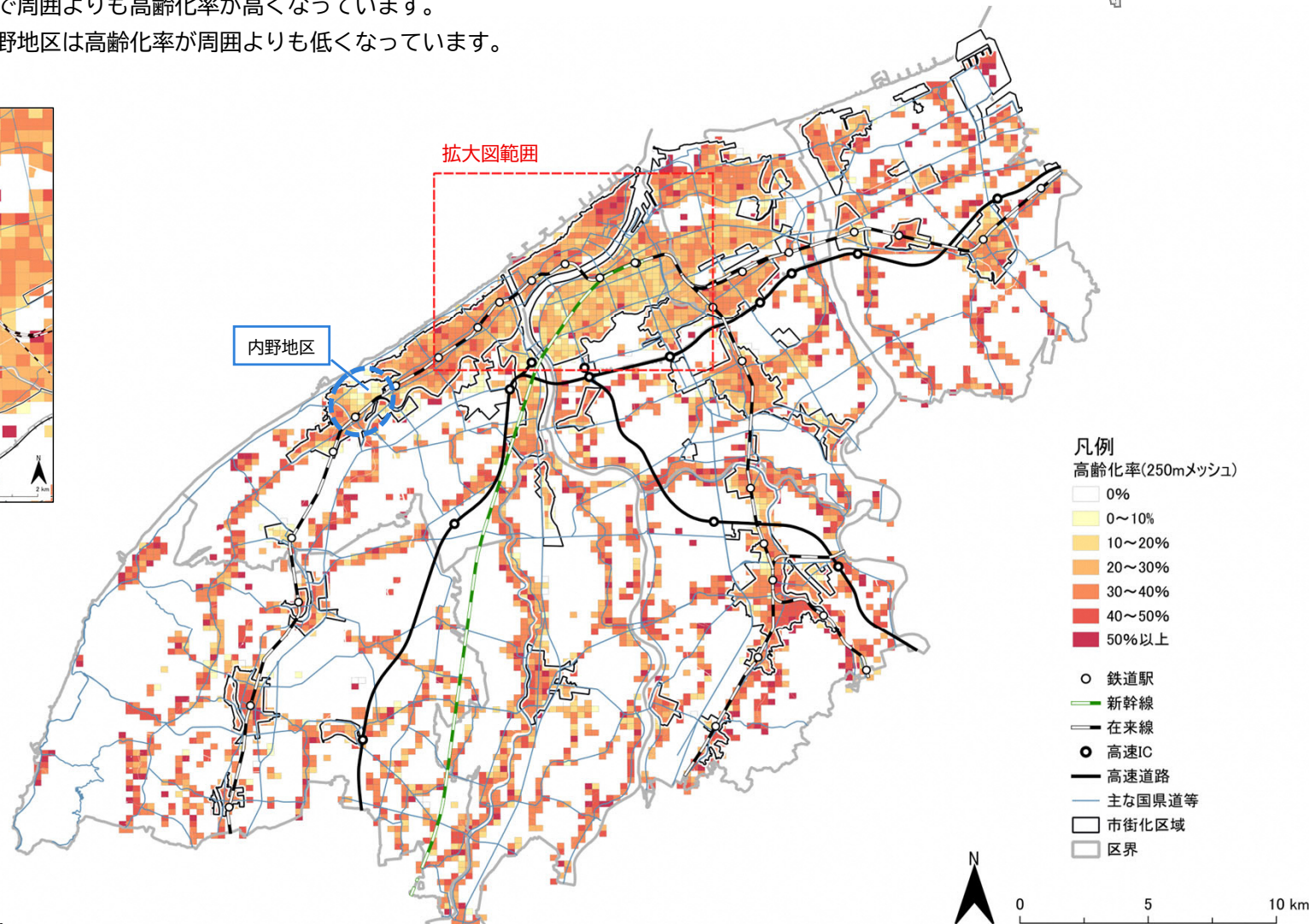
- ・新潟市全体の傾向として、中央区や西区の一部を除き、高齢化率が30%を上回っています。特に市街化調整区域の集落部は、市街化区域よりも高い傾向がみられます。
- ・中央区の一部、入船地区では比較的広い範囲で周囲よりも高齢化率が高くなっています。
- ・中央区の出来島・上所・女池周辺や西区の内野地区は高齢化率が周囲よりも低くなっています。



【図・グラフの説明】

この図は、新潟市の高齢化率について、250m四方のメッシュ図で表現したものです。色が濃いほど、高齢者の比率が高いことを表しています。図中で色塗りのない部分は高齢人口がゼロであることを示します。

使用データ:「令和2年国勢調査(j-STAT MAP 250mメッシュ人口)」総務省

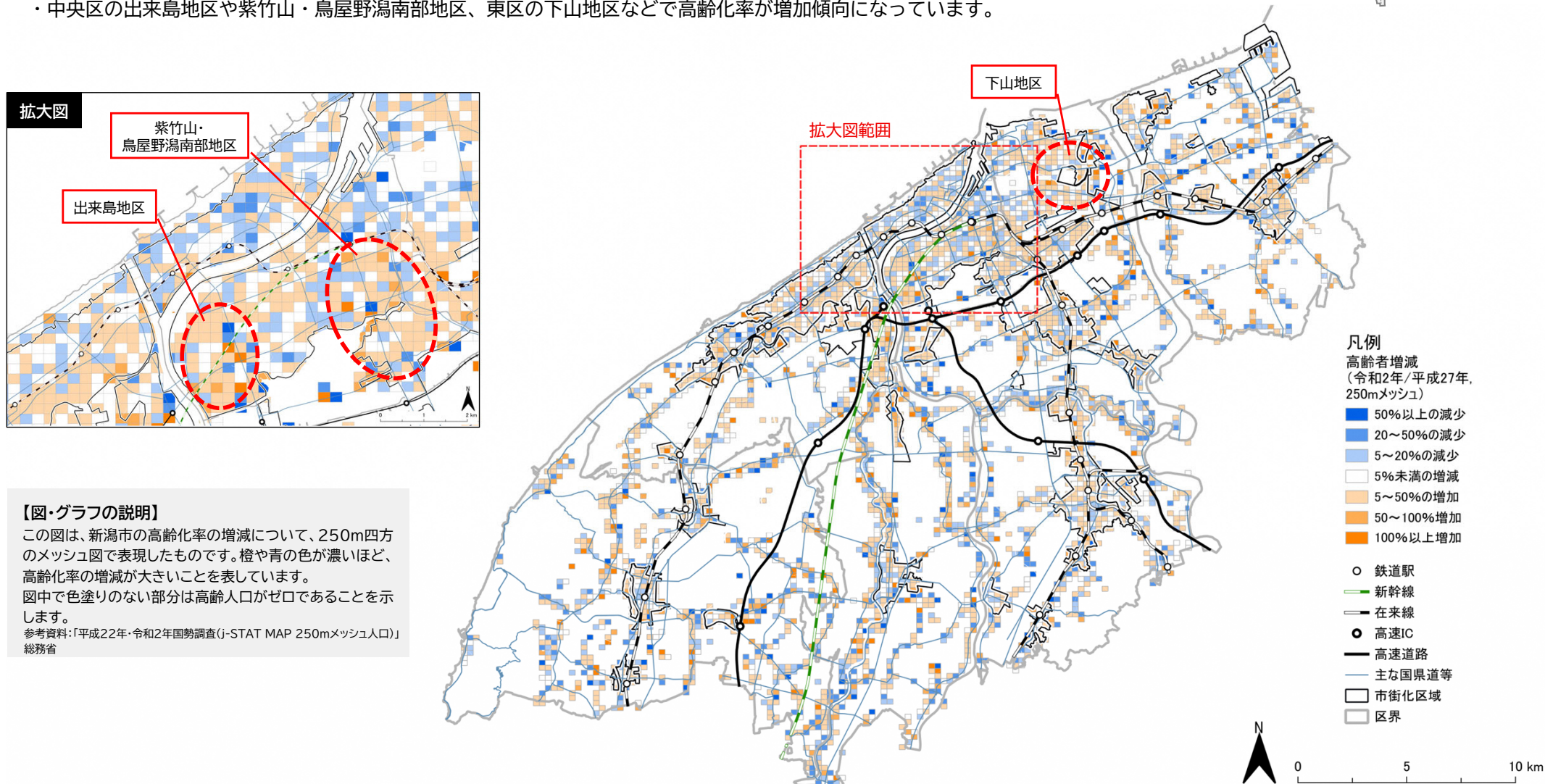


用語解説 高齢化率：人口に占める65歳以上人口の割合を示す指標です。

図 高齢化率状況 (令和2年)

A-4 高齢者人口の増減状況

- ・新潟市全体では、市街化区域内外に関わらず、高齢化率が増加する地区と低下する地区が不規則に分布しています。
- ・市街地では、中心部が低下傾向である一方、周辺の市街地外縁付近は増加傾向がみられます。
- ・中央区の出来島地区や紫竹山・鳥屋野湯南部地区、東区の下山地区などで高齢化率が増加傾向になっています。



【図・グラフの説明】

この図は、新潟市の高齢化率の増減について、250m四方のメッシュ図で表現したものです。橙や青の色が濃いほど、高齢化率の増減が大きいことを表しています。

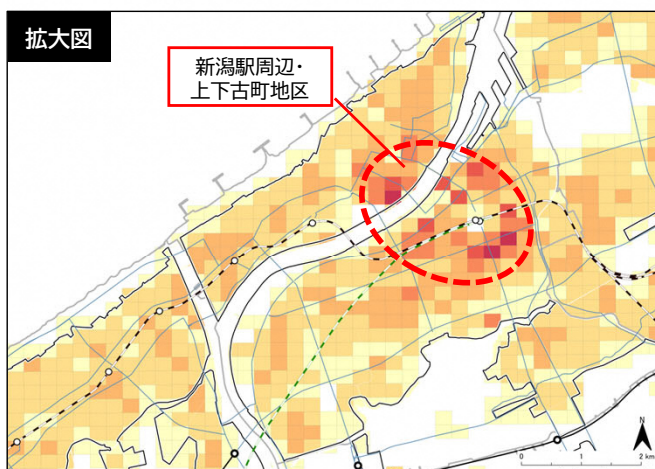
図中で色塗りのない部分は高齢人口がゼロであることを示します。

参考資料：「平成22年・令和2年国勢調査(j-STAT MAP 250mメッシュ人口)」総務省

図 高齢化率増減状況（平成22年→令和2年）

A-5 世帯数の分布状況

- ・新潟市全体についてみると、世帯数の密度は都心部から郊外に向けて低下していく傾向がみられます。
- ・市街化調整区域の集落部は世帯密度が20世帯/haと低くなっています。
- ・区別にみると特に中央区の一部、中高層マンションの建築が進む新潟駅周辺・上下古町地区や、学生が居住する五十嵐（新潟大学周辺）に高密度の世帯集中がみられます。



【図・グラフの説明】

この図は、新潟市の世帯数分布について、250m四方のメッシュ図で表現したものです。色が濃いほど、世帯数が多いことを表しています。
図中で色塗りのない部分は世帯数がゼロであることを示します。

使用データ:「令和2年国勢調査(j-STAT MAP 250mメッシュ世帯数)」
総務省

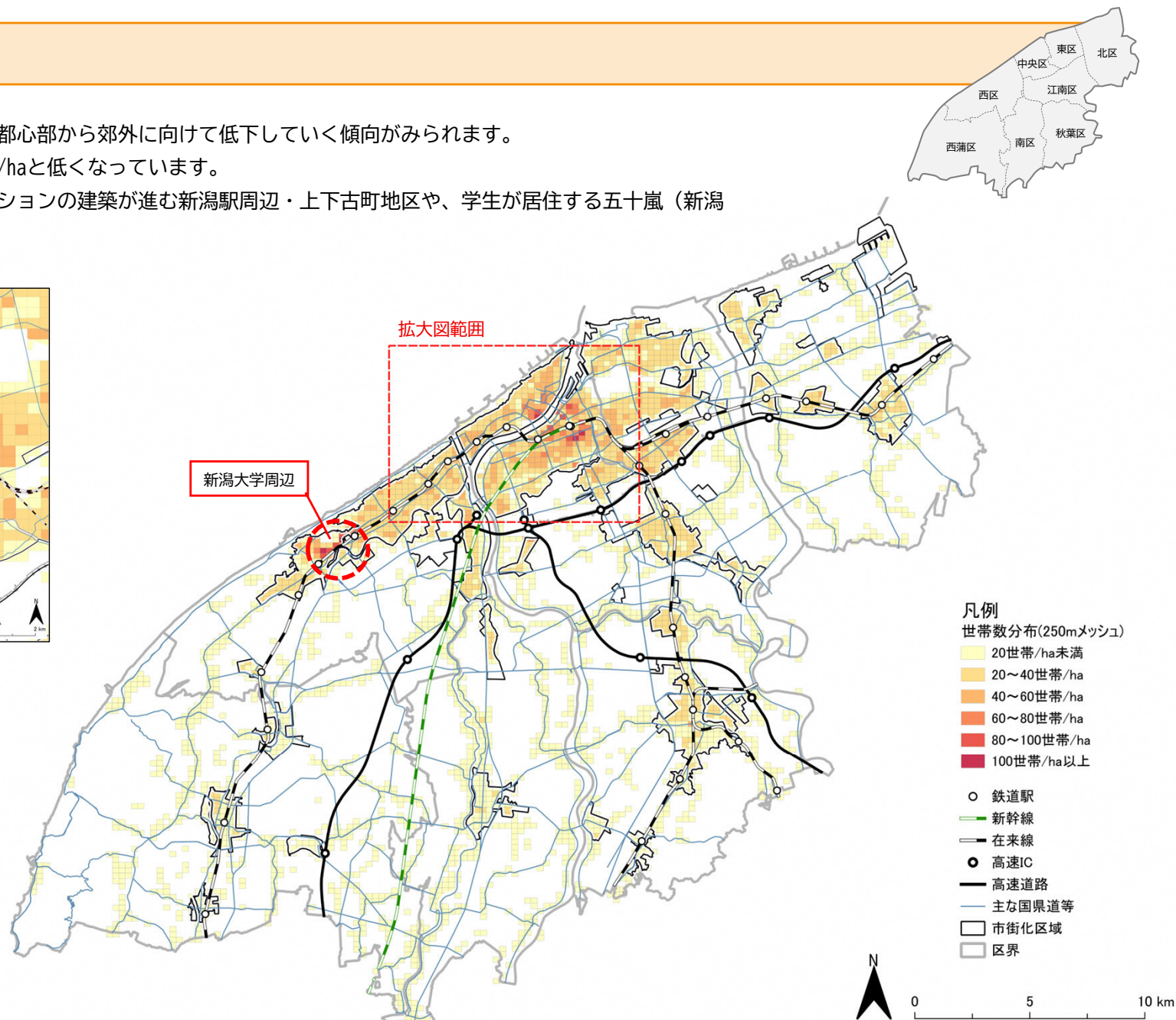
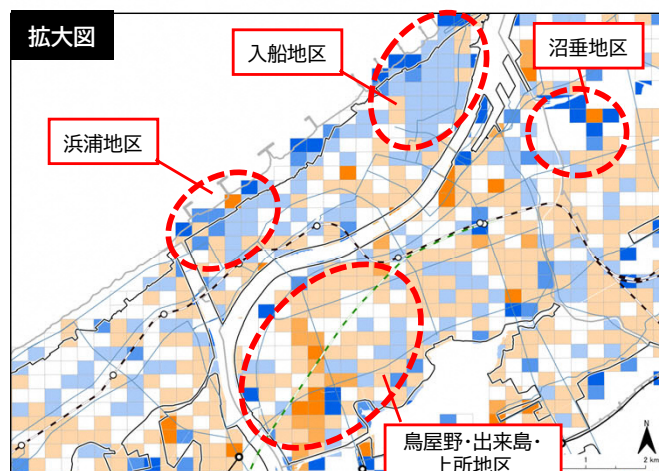


図 世帯分布状況(令和2年)

A-6 世帯数の増減状況

- ・新潟市全体では、市街化区域内外に関わらず、世帯数が増加する地区と減少する地区は不規則に分布しています。
- ・区別では、特に高齢化率が高い中央区の入船地区で減少が顕著であるとともに、中央区の沼垂地区、浜浦地区や西区内野地区、秋葉区新津中央など古くからの住宅地でも減少しています。
- ・一方、中央区の鳥屋野・出来島・上所地区、東区の下山地区、西区の越後赤塚駅周辺、秋葉区荻川駅・さつき野駅周辺では増加が確認できます。



【図・グラフの説明】

この図は、新潟市の世帯分布の増減を250m四方のメッシュ図で表現したものです。橙や青の色が濃いほど、世帯数の増減が多いことを表しています。図中で色塗りのない部分は世帯数がゼロであることを示します。

参考資料:「平成22年・令和2年国勢調査(j-STAT MAP 250mメッシュ世帯数)」総務省

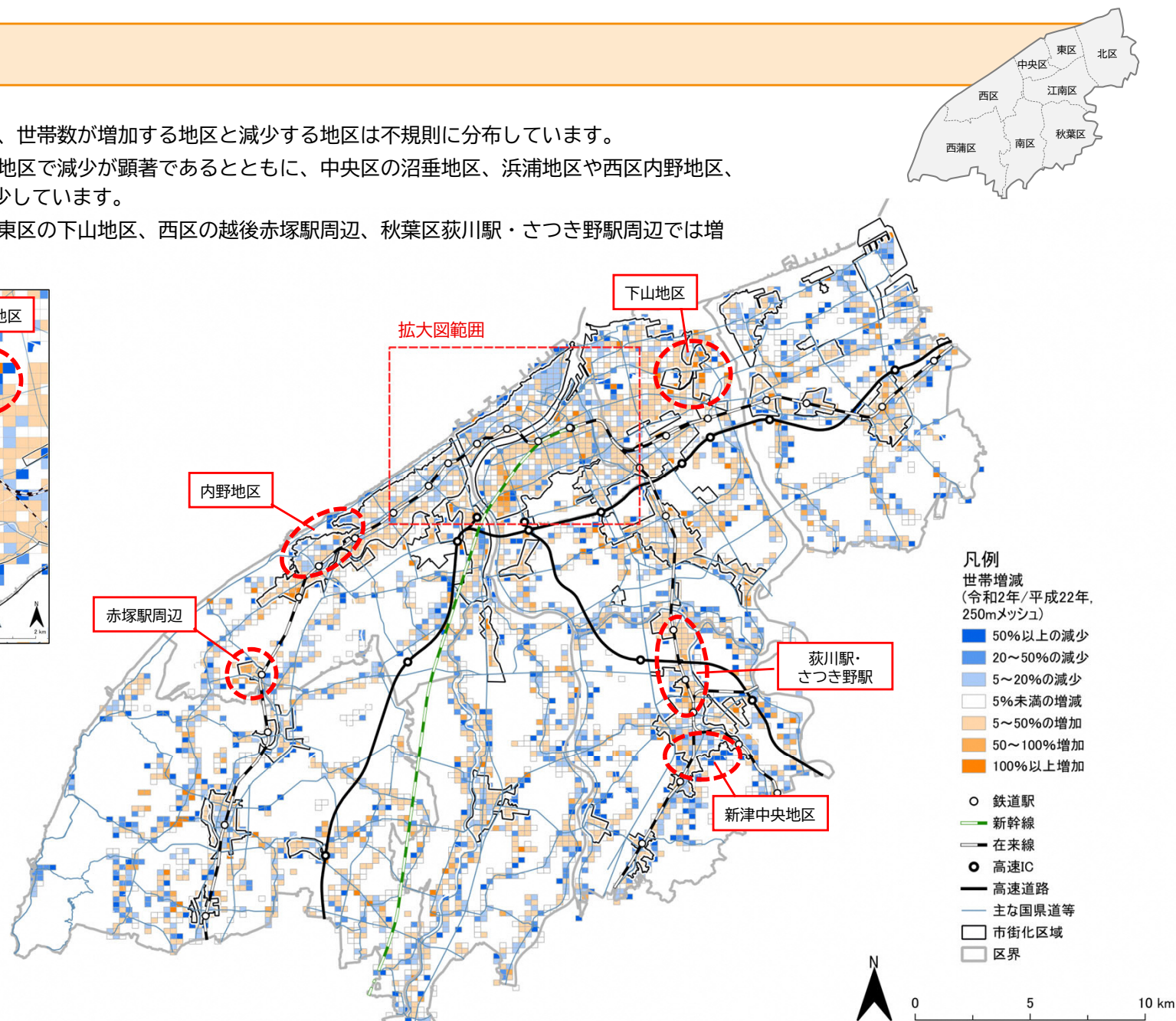
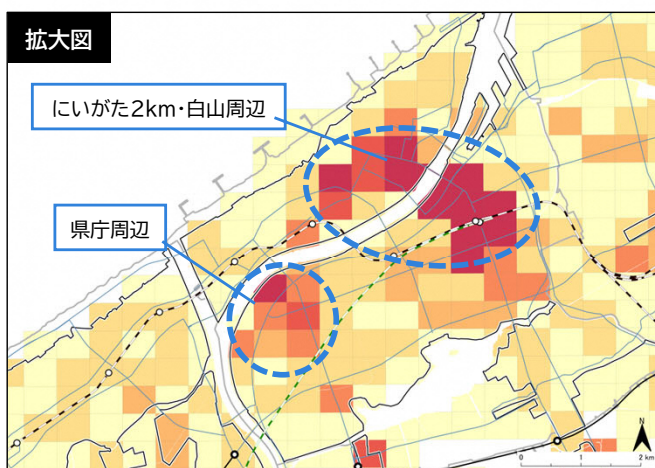


図 世帯分布の増減状況(平成22年→令和2年)

A-7 従業員の分布状況

- ・新潟市全体では、市街地中心部の従業員密度が高く、縁辺部は低い傾向がみられます。市街化調整区域はほぼ全域で20人/ha未満と低い状況です。
- ・区別では、中央区の中心部が100人/ha以上、他の区の中心部で20～40人/haや40～60人/haの地区が分布します。
- ・中央区のにいがた2kmエリアや白山周辺が市内でも最も従業員密度が高いほか、県庁周辺、流通団地が分布する東区の石山、西区の小新、江南区の亀田西などが続きます。



【図・グラフの説明】

この図は、新潟市の従業員の分布について、500m四方のメッシュ図で表現したものです。色が濃いほど、事業所で多くの従業員が働いていることを表しています。図中で色塗りのない部分は従業員がゼロであることを示します。

使用データ:「令和3年国勢調査(j-STAT MAP 500mメッシュ従業員数)」
総務省



図 従業員分布状況(令和3年)

A-8 従業員の増減状況

- ・新潟市全体では、市街化区域の内外に関わらず、従業員数が増加する地区と減少する地区が不規則に分布しています。
- ・区別では、秋葉区、南区、西蒲区の市街化調整区域で、他の地区よりも従業員数の減少率が高い地区がみられます。
- ・中央区の出来島地区、北区の南浜地区、東区の下山・大形地区などで従業員数の増加がみられます。

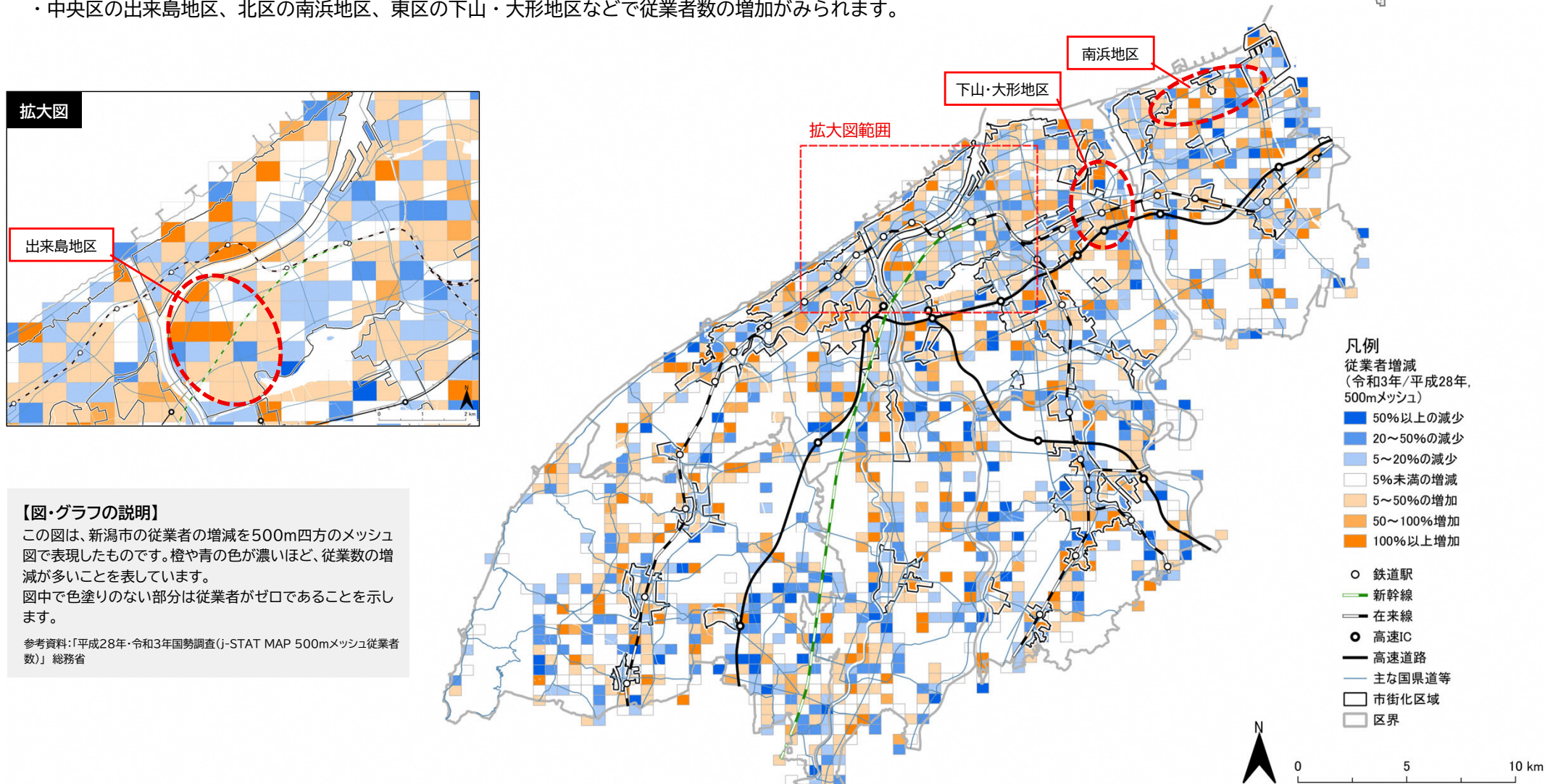


図 従業員の増減状況(平成28年→令和3年)